

ID No.	3073
研究課題名	機能性ペプチドを用いた炎症性疾患に対する新規治療戦略の構築
研究代表者	吉岡 靖雄(大阪大学微生物病研究所 ワクチン創成グループ・特任教授)
研究組織 受入教員 研究分担者	一戸 猛志(東大医科研・感染症国際研究センターウイルス学分野・准教授) 長井 みなみ(東大医科研・感染症国際研究センターウイルス学分野・大学院生)
研究報告書	<p>2020年度「プロテインXの細胞外核酸受容体としての妥当性評価」</p> <p>炎症を惹起することが知られている、CpG核酸(1本鎖DNA)、poly(I:C)(2本鎖RNA)などの核酸が、組換えプロテインXへ結合することを確認した。また、これら核酸の、マクロファージや樹状細胞に対する細胞表面への結合性やサイトカイン誘導能が、プロテインXの阻害剤および組換えプロテインXの添加により阻害されことを明らかとした。さらに、プロテインXの強制発現系やノックダウン系を用い、細胞表面上のプロテインXが、これら細胞外核酸の細胞表面受容体であることを評価中である。</p>